

日身連

発行所
 社会福祉法人
 日本身体障害者団体連合会
 (中央障害者社会参加推進センター)
 発行人 阿部 かつ彦
 東京都豊島区目白3丁目4の3
 デアダンクビル4階
 TEL03-3565-3399(代)
 FAX03-3565-3349
<http://www.nissinren.or.jp>
 Japanese Federation of
 Organizations of the
 Disabled Persons (JFOD)
 年間購読料 正会員1部 300円
 非会員1部 1000円

国交省移動等円滑化評価会議に 阿部会長が出席

3月28日に、国土交通省第9回移動等円滑化評価会議(以下、「評価会議」)がオンラインで開催されました。

改正バリアフリー法に基づき、関係者で構成する評価会議において定期的にバリアフリー化の進展状況を把握・評価することを目的としています。第9回会議では、国土交通省より「基本方針に定める移動等円滑化の目標達成状況」について報告されました。鉄軌道駅、バス、タクシー、旅客船、航空分野、道路、都市公園等について整備状況が報告、確認されました。秋山哲男座長(中央大学研究開発機構教授)より「対策がハードからソフトに少しずつ移り始めている流れの中で、知的・精神・発達障害、認知症のある人への対応をどうするか」等が今後の課題として提起されました。

またろう学校とJR東日本、民間企業が共創し誰もが安心して利用できる駅をめざした、駅のアナウンスや列車が接近する音などを文字や手話で表現した実証実験「エキマトペ」の取組も紹介され、「すばらしい当事者参画」などの意見が寄せられました。

当会より委員として参加した阿部一彦会長は自身の下肢障害とも関連し、都市間高速バスの乗降にかなりの困難を要すること、また普及が望まれているUDタクシーについて車種により乗降に不便があること等の意見を述べました。

なお、国交省では地域における移動等円滑化の進展状況を把握するため、評価会議の下部組織として全国10ブロックに分科会を設置し、地域の企業・団体などと連携したハード・ソフト両面のバリアフリー化の取組を進めています。各地域の取組については、

資料として公開されていますので、ご参照ください。
 ▼移動等円滑化評価会議のサイト(国土交通省)
https://www.mit.go.jp/sogosesaku/barrierfree/sosei_barrierfree_tk_000160.html



バスの乗降(写真はイメージです)



エキマトペの取組(第9回評価会議資料より)

障害者の居住にも対応した住宅の 設計ガイドラインに関する検討会

4月12日(水)、国交省が主催する「(仮称)障害者の居住にも対応した住宅の設計ガイドラインに関する検討会」が開催されました。

近年、バリアフリー法の改正や建築設計標準の見直しが行われるなど、建築物のバリアフリー環境の整備に向けた取組が進められており、高齢者の居

住する住宅についてはその設計に係る指針が定められています。

今般、共同住宅についても障害者が居住可能なバリアフリー環境の整備に向けた取組が求められていることから、要配慮者の状態に応じた具体的な配慮事項をまとめたガイドライン作成に関する検討が行われる予定です。

